

和牛を飼養している地域では、肉質などに優れた有名種雄牛をつくり、その血筋を基に子孫を繁栄させている。おいしい和牛肉の生産のためには、能力の高い種雄牛の存在

未来を開く

青森産技センター報告

—41

が欠かせない。畜産研究所がつくった種雄牛「第1花園」は、安定した霜降りと、高い増体能力(肉量の多さ)から全国的に高い

評価高い県産牛

DNAで能力評価迅速

和牛五輪へ関係者一丸



種雄候補牛の選抜作業



基幹種雄牛「平安平」

評価を得た。最近、この娘牛が母親となって活躍している。現在、「第1花園」の後継種雄牛のほか、別系統である「優福栄」、「光茂」、

「平安平」の種雄牛が、これら産子も本県の子牛市場で活発に取引されている。

本県が和牛の産地として全国的に認知されたのは「全国和牛能力共進会」だった。共進会は5年に1度、各県の代

現在、今年9月に宮城県で開かれる第11回共進会に向け、県内の和牛関係者と一丸の技術開発が成果を出し、本県和牛の評価をさらに向上させたい。

本県が和牛の産地として全国的に認知されたのは「全国和牛能力共進会」だった。共進会は5年に1度、各県の代

飼育管理指導を通じて着々と

表牛が一堂に会して競うため、和牛オリンピックとも言われている。2002年に行われた第8回共進会の肉牛(肥育牛部門)で「第1花園」の産子が優等賞を受賞したほか、他の品評会でも最高位を受賞。07年には、それまで低迷していた本県子牛市場の平均価格を全国1位に押し上げる原動力となった。

現在、今年9月に宮城県で開かれる第11回共進会に向け、県内の和牛関係者と一丸の技術開発が成果を出し、本県和牛の評価をさらに向上させたい。

準備を進めている。また、当研究所は優れた種雄牛をつくる技術開発に取り組んでいる。能力が高い種雄牛(父)と繁殖用雌牛(母)の交配により受精卵を複数個採取し、多数の牛に移植して効率的に種雄候補牛をつくらせている。さらに、「父」「母」の能力評価に加えて、子牛そのもののDNAを解析して、能力を推測する技術に取り組んでいる。これにより、改良スピードが早まることが期待される。本年度から、この技術を試行的に活用して、「優福栄」の後継種雄牛をつくらせており、17年度から発育調査を行う予定だ。

全国和牛能力共進会での成績や、新たな種雄牛づくりへの技術開発が成果を出し、本県和牛の評価をさらに向上させたい。

東奥日報 平成29年1月27日掲載

この記事は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。